

Benedictus

ベネディクトゥス

知っておきたいキリスト教のことば (184)

ベネディクトゥス ベねでいくとす

神学生の頃に、教区の北小松キャンプのスタッフをしたことがあります。一日のプログラムがすべて終わったときに、こんな声が聞こえてきました。「さあ、あとはコンプリンだ」と。きっと一日中水泳をしたり、暑い中疲れたりしたので甘い物でも食べるのだろうと想像しました。ただこんな夜遅くに食べて、体にいいのだろうか、そもそもコンプリンってどんなプリンなのだろうか、そういうことを考えていました。

知っている方は、「何を馬鹿なことを」と笑っておられるかもしれません。というのもコンプリンとは祈祷書にある「就寝前の祈り」のことで、食べ物のことではないからです。

この「知っておきたいキリスト教のことば」を書き出した理由の一つに、「自分たちだけにしか伝わらないキリスト教用語」の存在があります。「暗号」のような言葉の意味が分からないまま、意味を聞きかけがなくなってしまうことがあるのです。

今回の「ベネディクトゥス」は、「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。(Benedictus Dominus Deus)」の最初の部分です。この言葉はルカによる福音書 1 章 67～80 章に書かれている「ザカリアの賛歌(預言)」の初めの言語であり、そのことから「ベネディクトゥス」がザカリアの賛歌を指す慣用的表現となりました。

ザカリアは洗礼者ヨハネの父で、高齢で不妊の妻エリサベトに子どもが与えられるという天使からの予告を受けます。その予告が実現した時にザカリアが聖霊に満たされて預言したのが、ザカリアの預言です。

この預言の中には、「高い所からあけぼのの光が我らを訪れ」という表現があることから、「ザカリアの賛歌」は聖公会の祈祷書では、朝の礼拝(祈り)に用いられています。

今回は「ペンテコステ」です。楽しみに。



「ザカリアへの天使の告知」

ドメニコ・ギルランダイオ

(1448～1494 年)

「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、我らのために救いの角を、僕ダビデの家から起こされた。

(ルカによる福音書 1 章 68～69 節)

